

“長い春休み”

園長 高杉 洋史



Photo by
Hiroshi Takasugi

私の大学の入学式は5月の連休明けでした。もう40年前の話です。そのころ学生運動というのがありまして、安保反対とか叫んで、大学生が大学内外で暴れていました。信州大学はタコ足大学といわれており、教養部と医学部と人文学部は松本市、工学部と教育学部は長野市、繊維学部が上田市、そして農学部が伊那市にあります。今は大学のシステムもずいぶん変わっているでしょうが、そのころは最初の一年を教養部で過ごし、その後各学部のあるそれぞれの町に分かれるのです。私たちの一年先輩が学年最後の試験をホイコットしたり、その他もろもろの事情で、入学式が一月遅れたというわけです。4月は自宅待機で、長い春休みを楽しませてもらいました。赤ずきんちゃん気を付けて」という庄司薫さんの小説にそのころの受験生の気持ちを描かれています。私も萩城址の桜を眺めたり、モクレンや夏ミカンの花の香りを楽しんだものです。この思い出は40年前の信州大学一年生のことですが、今年には日本中、世界中の子どもたちの長い春休みになってしまいました。小学生のころから夏休みにしてもお正月休みにしても、終わりが近づけば近づくほど、もう終わりなんだ、宿題は早く片付ける計画だったのにと後悔をしたものですが、今回ほど長い春休みが早く終わってくれと思うのははじめてです。

大学2年生の時、石油ショックというのが起きました。石油の輸入がうまくいかなくなり、日本中が大騒ぎになりました。トイレトパーも足らなくなり、お店には長い行列ができました。私の下宿は水洗式ではなかったのですが、困りませんでした。下宿のおばさんから、物価がとも上がったので、晩御飯を作ってあげられないと謝られて参りました。そこから自炊生活が始まりました。そのころの農学部はほぼ全員が男子学生で、料理には疎い人ばかりと思いきや、信州大学は学業を目指してくる学生ばかりではなく、スキーや登山を目指してやってくる学生もたくさんいます。彼らの料理の腕もすごいです。そのお陰で私の料理の腕も上がりました。名前だけはおいしそうだけど、大してうまくない天然物のから松茸も佃煮にして友達と酒盛りをしたものです。そのカラマツダケは主にカラマツ林に生えるのですが、テニスコートのすぐ近くにも生えるのです。そんな経験からか今も園長先生は散歩道の脇に生えているノビル(野生のニンニクに似た植物)を収穫して野趣を楽しんでいます。

今回の駄文に無理やりこじつけた結論は体の健康とともに心の健康にも気をつけましょう。